

# 人権まちづくり新聞



第20号  
編集発行  
枚方人権  
まちづくり協会

## 「人権週間」をご存知ですか？

### 十二月十日は人権デー

一九四八年十二月十日に世界人権宣言を採択したことを機に、国連は十二月十日を「人権デー」と定めました。これを受けて、わが国でも十二月四日から十二月十日の一週間を「人権週間」と定めて、その期間中に様々な機関を通じて世界人権宣言の趣旨およびその重要性を啓発する取り組みがされています。

当協会でも枚方市からの委託事業として、毎年、人

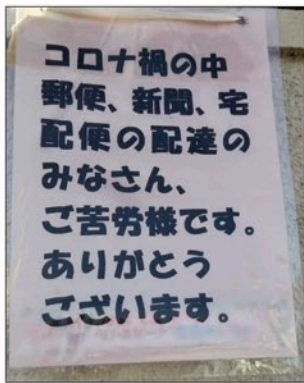
権週間事業を様々な形で行っており、今年も、ペシヤワール会会長の村上優さんをお招きして講演会を予定していました。しかし、コロナ禍により市主催事業の中止と市施設の利用中止が決定され、実施することができなくなりました。楽しみにされていた皆様には申し訳なく思っています。

権週間事業を様々な形で行っており、今年も、ペシヤワール会会長の村上優さんをお招きして講演会を予定していました。しかし、コロナ禍により市主催事業の中止と市施設の利用中止が決定され、実施することができなくなりました。楽しみにされていた皆様には申し訳なく思っています。

残念ながら、わが国では

いまだに、いじめや虐待、外国人や障がいのある人、

ハンセン病元患者やその家族などへの偏見や差別、企業等での各種ハラスメントなど、様々な人権問題が存在しています。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い感染



### ◆シリーズ◆ 人権な街角

## コロナ禍に分断よりも力合わせを

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は全国に緊急事態宣言を発し、外出の自粛や人が多く集まる

公共施設の休館、飲食店への休業や営業時間の短縮などの「要請」を相次いで出しました。それを受け、休業していない店や感染者をバッシングしたり、コロナと必死に対応している医療従事者を身近なところに見せつけられないようにする動きや、宅配業者などへの人格を無視した対応など、市民

社会の中に人権侵害とも言える事態が見られるようになります。ただその一方では、写真のように宅配業者などへの「感謝」の意を表示して、排除や差別に一石を投じようという市民もおられます。コロナウイルスは人を選びません。誰にも感染する恐れはあるわけで、私たちは市民社会を分断するのではなく、みんなで力を合わせて、このコロナ禍に対応することが求められています。

枚方人権まちづくり協会の相談事業

<p>〈人権まちづくり協会〉 サンプラザ1号館5F TEL 072-844-8788</p> <p>[人権なんでも相談] 月～金 9:00 - 17:30 (第1水曜・第4木曜は 12:45～17:30)</p> <p>[地域就労支援相談]※ 月～水・金 9:00 - 17:30</p> <p>[進路選択支援相談]※ 火13:00 - 17:00 18:00 - 20:00</p> <p>[福祉なんでも相談] 月～金 9:00 - 17:30 専用電話072-844-8866</p>	<p>〈男女共生フロア・ウィル〉 サンプラザ3号館4F TEL 072-843-5636</p> <p>■女性のための相談 [電話相談] 火15:00 - 20:00 水13:00 - 17:00 木10:00 - 15:00 専用電話072-843-7860</p> <p>[面接相談]※ 水13:00 - 16:10 木14:50 - 19:30 金10:00 - 15:00</p> <p>[法律相談]※ 第1土・第4火10:20-12:50 第2金 13:20 - 15:50 第3木 17:20 - 19:50</p> <p>■男性のための電話相談 第1土 14:00 - 17:00 第4木 18:00 - 20:00 専用電話072-843-5730</p>
--	--

※の相談は予約が必ず必要です。それぞれの施設に電話で予約してください。



# 枚方市人権文化セミナーを開催

## 映画「作兵衛さんと日本を掘る」

十一月七日にメセナひらかた会館で、ドキュメンタリー映画「作兵衛さんと日本を掘る」を上映しました。

山本作兵衛さんは一八九二年、福岡県嘉麻郡に生まれ、両親について七歳の頃から筑豊炭坑に入りました。明治・大正時代は生活のため女性や子どもも炭坑で働いていました。

作兵衛さんは六十年代半ばで独学で絵筆を握り、五十年間の炭坑の日々の記憶を



描き続け、二千枚とも言われる絵を残しました。

今回、この絵や日記をもとに映画が製作されました。

当時、炭坑内では、掘り手と運び手が組んで仕事をしていました。男はふんどし一丁、女は腰巻一枚での仕事。「初めは裸で恥ずかしかったが、夫と一緒にだったのについていけた」という元おんな坑夫の話やおんな坑夫が下り坂から足を踏み外さないように、命がけで石炭を運んでいる絵など。絵からは当時の必死に生きる力が感じられます。

仕事が終わわり、子どもに会えるのが日々の喜びだった。仕事上がりの入浴は混浴で、湯は汚れて真っ黒になっていったこともあった。

作兵衛さんの孫が結婚し、本籍を自分たちの原点であるその地を選んで役所に届けたとき、「この地は元炭

坑ですよ」と言われた話など、そこには、今も残る差別の目を感じられます。

二〇一一年五月二十五日作兵衛さんが残した日記や絵、六九七点が日本で初めてユネスコ世界記憶遺産に登録されました。

熊谷博子監督は、「この映画を作るのに七年もかかっ

た。背後にあるものが、あまりに深く広いからだ。上映を続けながら思った。現代のおんな坑夫になりたい。私たちの足元に埋もれている事実がたくさんある。これを掘りだして、運んで、未来に突き抜ける坑道を掘れたら、と願う」と結ばれています。

映画を鑑賞された方々から、炭坑についてよく知らなかったのが、よい機会であった。感動したとの感想が多く寄せられました。

## 市民活動部会

枚方人権まちづくり協会では、人権なんでも相談など各種相談事業のほか、人権啓発事業にも取り組んでいます。人権啓発事業は市からの委託を受けたものと、協会独自のものがあります。

協会独自の啓発事業を企画・運営する中心を担っているのが市民活動部会です。市民活動部会は、現在、部会員7名で構成され、ほぼ月に1回の会合を持ちながら、市民向けに講演会や映画会など、また、会員向けに現地研修など、様々な人権啓発事業を企画・運営しています。

去年は、障がいのある子なども同じ教室で学ぶ映画「みんなの学校」の上映会やアルピノ当事者による「見た目問題」の講演会などを行い、現地研修では人権にかかわる施設として、徳島にあるドイツ館と阿波十郎兵衛屋敷を訪れました。

枚方市を今後、ますます人権が尊重されるまちにしていくためにも人権啓発活動は大切な取り組みの一つだと考えます。

ただ今、市民活動部会では行事の運営にご協力いただける方を募集しています。会員であればどなたでも参加できます。詳細は事務局までお問い合わせください。

## 会員随時募集

枚方市を市民一人ひとりの人権が大切にされるまちへ（年会費1口 1000円）

NPO法人枚方人権まちづくり協会

TEL:072-844-8788 FAX:072-844-8799